

地域包括支援センターによるケアマネジメント支援への影響要因に関する一考察

—包括的・継続的ケアマネジメント支援に関する研究（2）—

○ 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士後期課程 大口 達也（7296）

岸 千代（ルーテル学院大学総合人間学研究科社会福祉学専攻博士後期課程・7619）

ケアマネジメント支援・スーパービジョン・地域包括支援センター

1. 研究目的

平成 27 年度の改正介護保険制度法施行により「医療・介護連携」「認知症施策」「地域ケア会議」の推進など、地域包括支援センター（以下、センターと略）における「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」の必要性が高まっている。「包括的・継続的ケアマネジメント支援」は『地域包括支援センター運営マニュアル 2012』によれば、センターから居宅介護支援事業所（以下、居宅と略）の介護支援専門員へのサポートとケアマネジメントの環境整備を一体的に実施することが求められているところである。しかしながら、そのような一体的な支援を行う「センターから居宅の介護支援専門員へのケアマネジメント支援」（以下、「ケアマネジメント支援」と略）を規定し、影響要因を析出した研究は先行研究からは見当たらない。

本研究では、「ケアマネジメント支援」をスーパービジョンの観点から規定し、センター内の協働体制の視点や「管理者から主任介護支援専門員へのケアマネジメント支援に関するスーパービジョン」（以下、「管理者のスーパービジョン」と略）が「ケアマネジメント支援」に影響を及ぼしていると仮説を立て、検証することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

本研究では、「ケアマネジメント支援」と「管理者のスーパービジョン」をスーパービジョンの観点から分析することとした。Kadusin, A によって作成されたスーパービジョン機能認知度尺度（1984:日本語版:FUKUYAMA, K. 1999）を用いて、5 件法のリッカートスケールで測定した。分析方法は、まず、スーパービジョン機能認知度尺度の内的整合性をクロンバック α で確認した上で、構成概念妥当性を確認的因子分析で確認した。妥当性が確認された後、重回帰分析により、「ケアマネジメント支援」への影響要因を析出した。

表 1 調査概要

調査時期	調査対象	回収数 (回収率)	分析対象者
2013年3月14日 ～2013年6月4日	東京都内全ての地域包括支援センター 471カ所の主任介護支援専門員	182人 (38.6%)	センターの主任介護支援専門員182人 (郵送法による分析対象者自記式調査)

3. 倫理的配慮

調査は、東京都社会福祉協議会センター部会とルーテル学院大学大学院社会福祉学研究室「ケアマネジメント研究会」との共同調査であり、本研究は前者の承認を得て、分析・考察したものである。本研究では、調査結果の使用用途の限定や個人が識別されないデータ加工などの倫理的配慮を調査時に明記した。

4. 研究結果

「ケアマネジメント支援」と「管理者のスーパービジョン」のいずれのにおいても、スーパービジョン機能認知度尺度の3機能（管理、教育、支持）はクロンバックαは統計学的な許容水準を満たす結果が得られた。また、統計ソフト AMOS を用いた確証的因子分析においても、その構成概念妥当性について統計学的な許容水準を満たす結果が得られた。

表2 ケアマネジメント支援及び管理者のスーパービジョンの項目と内的整合性

No	スーパービジョン機能認知度尺度 (1984:日本語版:FUKUYAMA, K. 1999)	機能 (因子)	クロンバックα	
			主任→CM	管理→主任
1	分担する役割を考慮すること	管理	.802	.930
2	業務の段取りができるように支援すること			
3	仕事の成果を確認すること			
4	仕事に充実感を持てるように支援すること			
5	業務が遂行できるように支援すること			
6	的確に仕事ができるように支援すること			
7	書類が作成できるように支援をすること	教育	.843	.915
8	業務の内容について助言すること			
9	直面している困難な事柄を解決できるように支援すること			
10	専門的な知識や技術を教えること			
11	専門家として成長できるように支援すること			
12	会議等への参加を通して自信をつけさせる支援をすること			
13	コミュニケーションの機会をもつこと	支持	.834	.900
14	サービス事業者等と連携できるように支援すること			
15	仕事のストレスに耳を傾けること			
16	仕事ができるように励ますこと			
17	立場を尊重すること			
18	大変さをねぎらうこと			

「ケアマネジメント支援」の各機能を被説明変数とし、「管理者のスーパービジョン」と「ケアマネジメント支援における多職種協働因子（協働のための相互教育、専門職間の自立性の明示、協働効果の予測と限界）」を説明変数とするステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果、図1～3のようになった。(** $p < 0.00$ ** $p < 0.1$ * $p < 0.5$)

図1

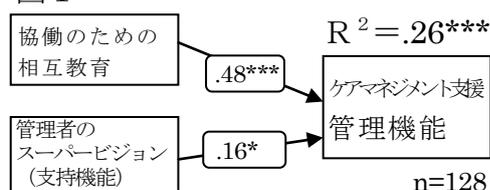


図2

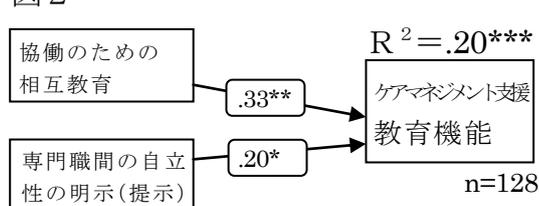
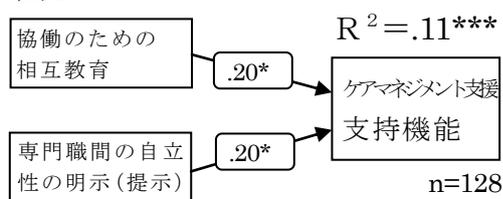


図3



5. 考察

全ての結果において、「協働のための相互教育」が「ケアマネジメント支援」への影響要因として析出された。このことは、センターにおけるスーパービジョンの体制と多職種協働の体制づくりを連動させて検討する必要があるのではないかと考える。調査の限界は主任介護支援専門員以外の専門職についての検証が必要なことである。